

<「知るっば!久留米」 令和3年8月12日(木) 12:30~放送分>

## 久留米入城400年 ~第2回~ 「その頃、久留米城は」

<ゲスト：久留米市文化財保護課 大塚 麻理子>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

8月は、『久留米入城400年』をテーマにお送りしていきます。ゲストはこの方です!

ゲスト:大塚さん(以下「大塚」)

久留米市文化財保護課 大塚麻理子です。今週もよろしくお願いします。

坂本 第2回目の今日は、『その頃、久留米城は』と題して、先週話題に上がりました、豊氏入城前に久留米を治めていた田中家や小早川家について語っていただきます。

大塚 では2人の城主の前に、最初にそれ以前の久留米城の成り立ちについてお話しておきますね。室町時代後期にあたる16世紀前半に、この地に初めてお城が建ったという記録が残っています。

坂本 それって有馬家が築城したような大きなお城だったんですか?

大塚 いいえ。お城というよりは、小さな砦に近いものだったようです。

築城者は、土豪という土地を治める豪族で、篠原城(ささはらじょう)と呼ばれていました。

笹が生い茂る平原の中の小山に築城されたのでそう呼ばれたのかもしれませんが。

16世紀後半には、当時一大勢力を誇っていた高良山の座主・良寛(りょうかん)の弟・麟圭(りんけい)が城主となっています。

この時から久留米城と呼ばれるようになりました。

坂本 戦国時代末期には久留米城と呼ばれていたんですね。

現在、久留米城のことを篠山城(ささやまじょう)と呼ぶこともありますよね。

大塚 そうなんです。ただ実は、篠山城は通称なんです。

久留米藩の終焉と、その後城跡に建立された篠山神社が関係しています。

明治4(1871)年の廃藩置県で久留米城も廃城になりました。

その後、城内は篠山町に改称されます。

明治10(1877)年に、旧藩士たちが旧藩主を祭神とする神社を本丸御殿跡に建立します。

それが、後に篠山神社に改称して、今に至ります。

坂本 なるほど。篠山町にあって、旧藩主を祀っている篠山神社が鎮座する城跡ということで、通称・篠山城になったんですね。  
久留米城の成り立ちがわかったところで、次は、豊氏前の小早川家と田中家について教えてください。

大塚 まず、小早川秀包(ひでかね)から紹介します。  
小早川秀包は、天正15(1587)年に秀吉が九州を平定した後、秀吉の命で久留米にやってきました。  
秀包は毛利元就の9男として生まれ、13歳の時に元就の3男である兄の小早川隆景(たかかげ)の養子となります。

坂本 小早川秀包は、あの豪傑(ごうけつ)な毛利元就の血縁者だったんですね。  
その武勇も受け継いでいたのでしょうか。

大塚 そのようですね。  
四国攻めでの活躍で、現在の愛媛県にあたる伊予国宇和郡3万5千石を与えられ、九州攻めでも戦功を挙げています。  
久留米城主となり、入城すると同時に城の改修や拡張を行い、領内統治を進めていたようです。  
黒田官兵衛こと如水(じょすい)の勧めで、キリスト教にも入信しました。  
キリシタン大名として有名な大友宗麟(そうりん)の娘と結婚し、キリスト教会堂も建築しています。

坂本 久留米にキリスト教の教会堂があったんですね。

大塚 そうですね。現在の市役所がある場所に建てられていました。  
発掘調査では、その当時の柱の跡や瓦などが発見されています。  
ただ、信心深い面がある一方で、その当時根強い勢力を持っていた高良山座主を城に呼び出し殺害するなど、強権をふるう一面もあったようです。

坂本 発掘調査の場面はよく覚えています。  
しかし、久留米での地盤を固めつつあった小早川の治世は、長くは続かなかった。

大塚 そうなんです。転機となったのは、第1回目でも話題に上がったんですが、慶長5(1600)年の関ヶ原合戦です。  
毛利家が加勢する西軍に属して敗戦したため、久留米の領地を没収されてしまうんですね。  
そして翌年、病のため35歳の短い生涯を終えました。

坂本 なるほど。天下分け目の関ヶ原合戦では、当時の久留米城主であった小早川秀包と、後の久留米藩主となる有馬豊氏の運命も大きく分けた戦であったんですね。  
そして、小早川亡き後、今度は田中家が久留米にやってくることになりますね。

大塚 そうですね。先の関ヶ原合戦で勝利し、次の城主としてやってきたのが田中吉政（よしまさ）です。吉政は、関ヶ原合戦において、敵軍の将である石田三成を捕らえるという大きな戦功を挙げ、筑後一国30万石余を拝領します。

ただ、田中吉政は、久留米城ではなく柳川城を居城としていたんですよね。

しかし、久留米城は第2の主城と位置づけられていたこともあり、吉政は、柳川城と久留米城をつなぐ幹線道路を整備しました。

坂本 この幹線道路、田中道と言いましょか、実は現在も引き継がれているんですよね。

大塚 そうなんです。

現在の県道23号線、俗に言う「柳川県道」は、この田中道を継承したものになります。

政治・軍事に優れ、土木や治水にも通じていて、領内支配政策も積極的に進めていた吉政だったんですけども、慶長14（1609）年に62歳で亡くなってしまいます。

その遺領を息子の忠政（ただまさ）が継承しますが、病のため36歳でその生涯を閉じてしまいます。それが、元和6（1620）年のことです。

後継ぎがいなかったので、田中家は断絶して改易することになります。

その後久留米にやってくるのが、有馬豊氏です。

坂本 いよいよ初代藩主の登場ということになりますね。

大塚 はい。いよいよ久留米入城・・・といきたいところですが、実は、有馬豊氏入城する直前の久留米城は、廃城となって荒廃していたんですよ。

大阪の陣の後に幕府から「一国一城令」が出されたため、支城だった久留米城は廃城せざるを得なかったんです。

おかげで、豊氏が久留米城に入国した際は、寝泊まりできる場所がなく、数カ月間は田主丸の大庄屋（おおじょうや）などの家に滞在するほかなかったという記録が残っています。

坂本 あ～、そんな状態だったのなら、入城早々豊氏も大変だったでしょうね・・・。

と言いながらそろそろ時間が参りました。

第3回では、そんな荒廃した状態から、藩主たちがどのように城づくり、町づくりを行ったのかをご紹介しますと思います。

第3回「城づくりと有馬の都市計画」もお楽しみに！